

---

---

## 2. 環境モニタリング調査の結果報告 (鳥類調査のみ)

---

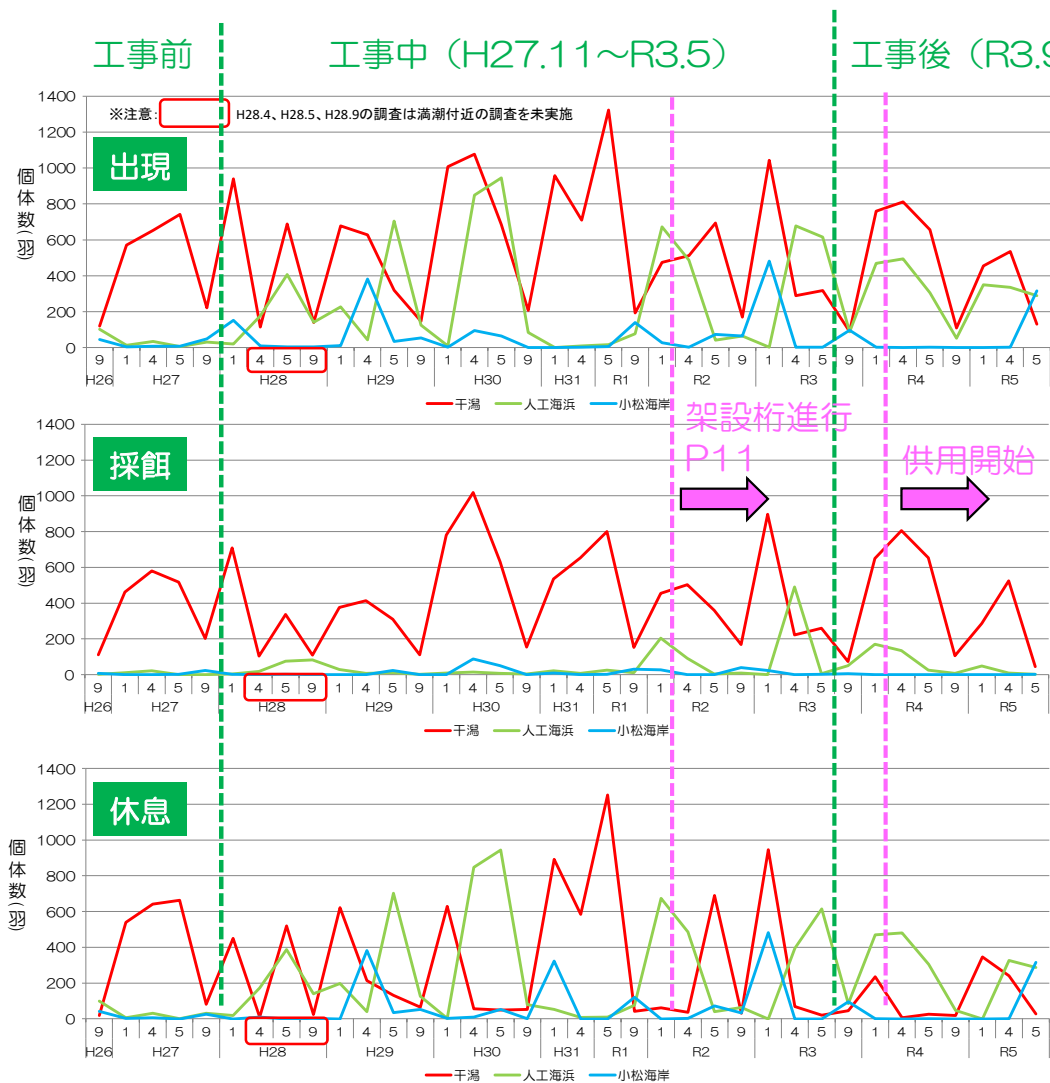
---

# 2-1 鳥類調査 ～シギ・チドリ類の生息状況～

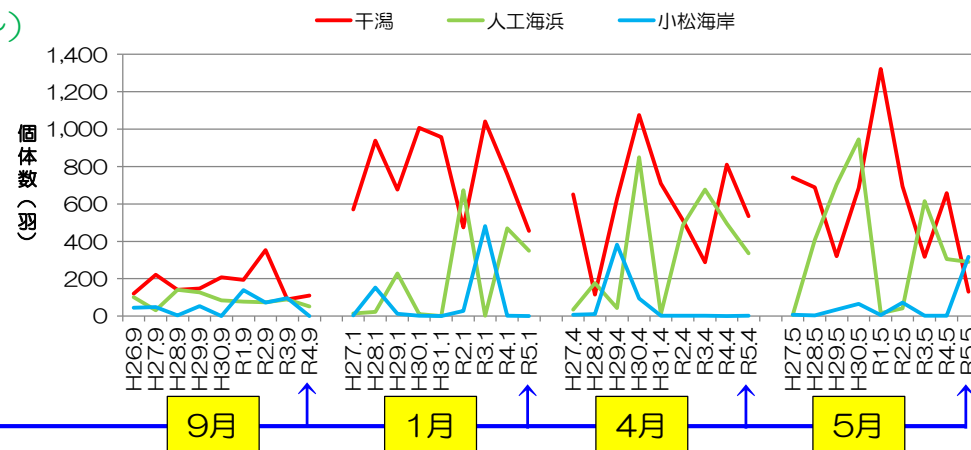


シギ・チドリ類の生息状況について、以下に示す。（データの詳細は参考資料を参照）

■生息個体数経年変化グラフ



■生息個体数調査時期別変化グラフ（※出現のみ）



令和4年9月～令和5年5月のシギ・チドリ類の出現状況について、河口干潟では、

- 9月は、例年よりもやや少なかった。
- 1月は、例年より少なかった。
- 4月は、例年並であった。
- 5月は、例年よりも少なく、小松海岸に出現した。4月から5月にかけて顕著に減少していることから、早期に渡ったと考えられる。

※工事中と事後調査でも、吉野川河口全体に出現するシギ・チドリ類は継続的に出現していることが確認された。



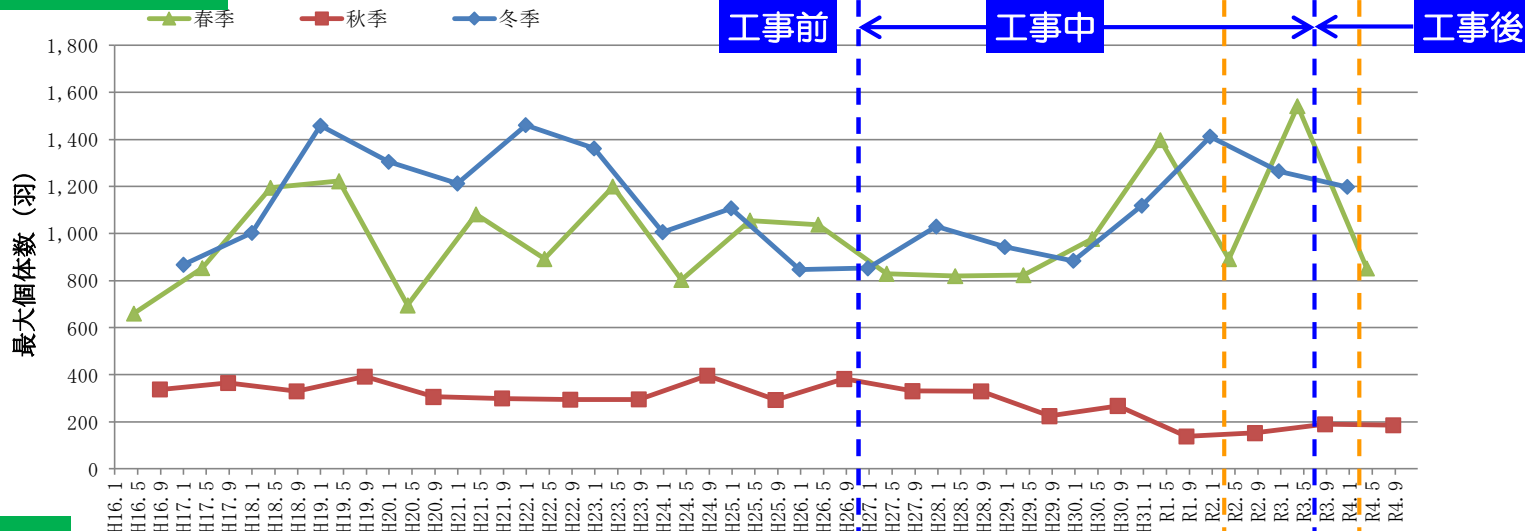
グラフの数字は、1日に5回程度調査する中での最大値を示している。

## 2-2 鳥類調査 ～シギ・チドリ類の生息状況～

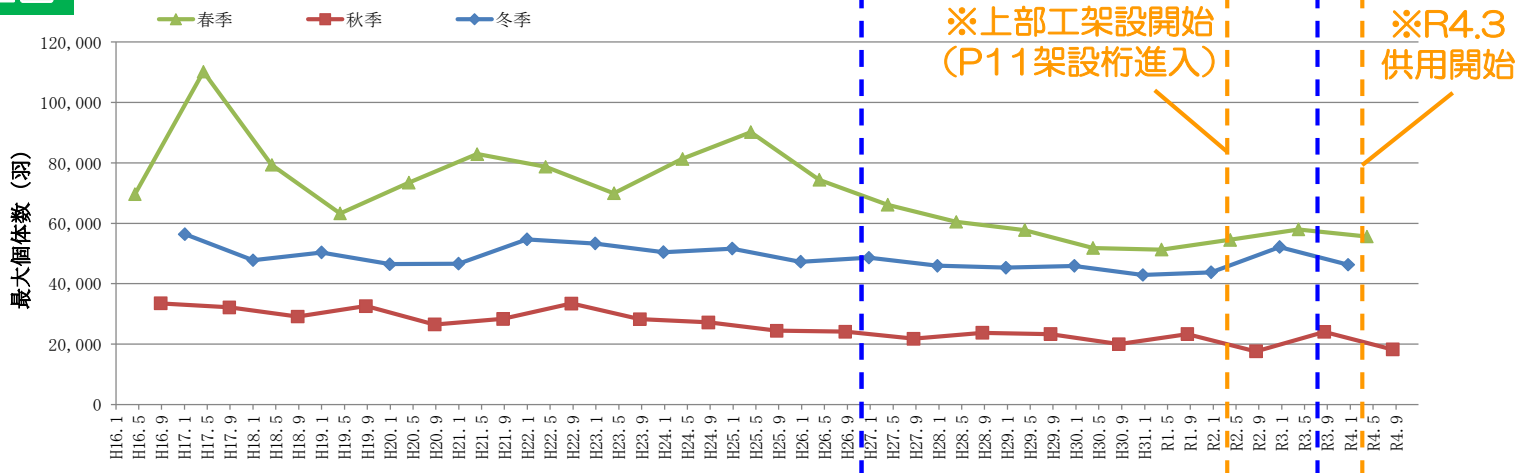


環境省が実施しているシギ・チドリ類の一斉調査について、以下に示す。

### 吉野川下流域



### 全国



・吉野川下流域では、本事業のモニタリング期間中である平成26年9月以降の**秋季が減少し、春季と冬季が増加している**

・全国においては、長期的に春季と秋季が減少しているものの、冬季では概ね横ばい傾向からやや減少が続いている。

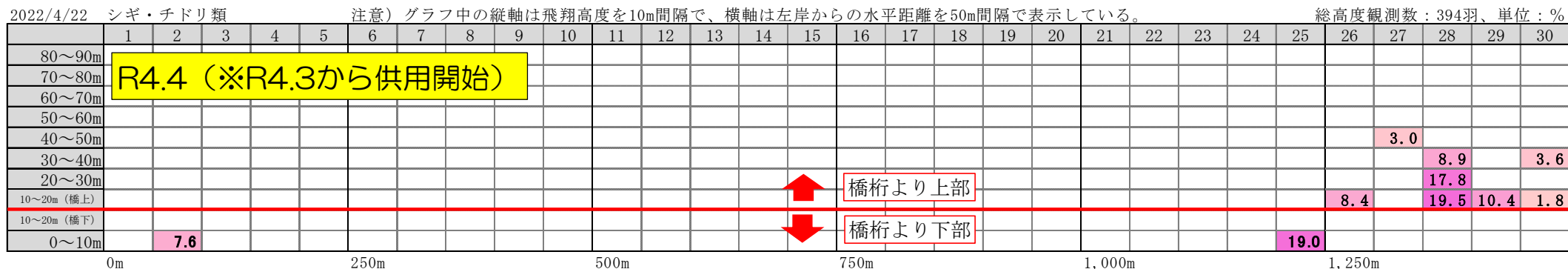
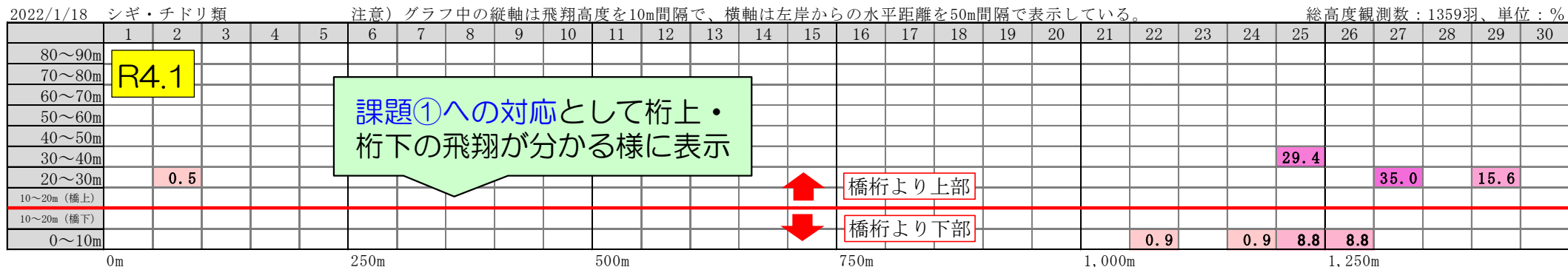
・長期的に全国のシギ・チドリ類が減少しているが、その中で吉野川河口は春季と冬季の減少が無く、**シギ・チドリ類の越冬のために一層貴重な空間であると考えられる。**

グラフは環境省モニタリングサイト1000のデータから作成

## ■ 2-3 鳥類調査 ～シギ・チドリ類の飛翔状況～



観測断面を橋梁位置に変更したR4.1以降のシギ・チドリ類の飛翔状況を以下に示す。R4.1に1,359羽、R4.4に394羽のシギ・チドリ類が飛翔し、そのほとんどが右岸側を群れて飛翔し、桁下の飛翔も確認された。

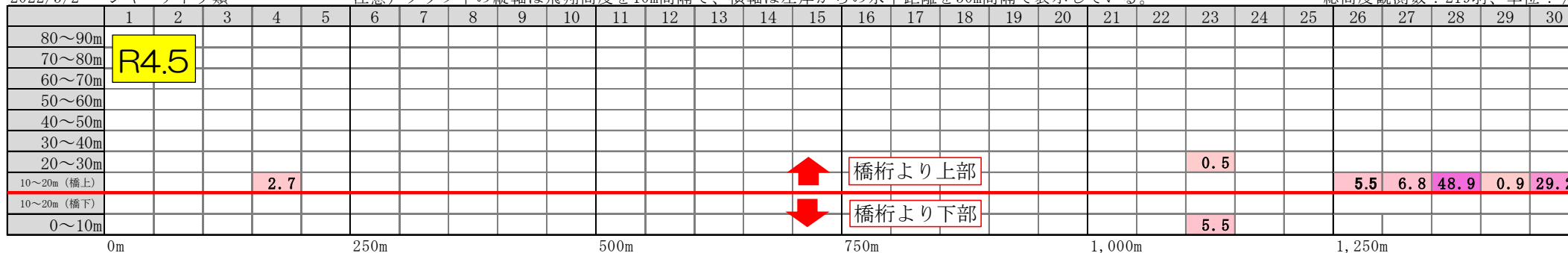


## ■ 2-4 鳥類調査 ～シギ・チドリ類の飛翔状況～



シギ・チドリ類はR4.5に219羽が飛翔し、そのほとんどが右岸側の橋桁上を飛翔した。また、R4.9は30羽が飛翔し、橋梁中央部の桁下を飛翔した。

2022/5/2 シギ・チドリ類 注意) グラフ中の縦軸は飛翔高度を10m間隔で、横軸は左岸からの水平距離を50m間隔で表示している。 総高度観測数：219羽、単位：%



2022/9/10 シギ・チドリ類 注意) グラフ中の縦軸は飛翔高度を10m間隔で、横軸は左岸からの水平距離を50m間隔で表示している。 総高度観測数：30羽、単位：%



左岸: 川内側

右岸: マリンピア側



## ■ 2-5 鳥類調査 ～シギ・チドリ類の飛翔状況～



シギ・チドリ類はR5.1に右岸側の桁上を77羽が飛翔した。R5.4は449羽が飛翔し、右岸側の桁上と桁下を飛翔した。





## ■ 2-6 鳥類調査 ～シギ・チドリ類の飛翔状況～



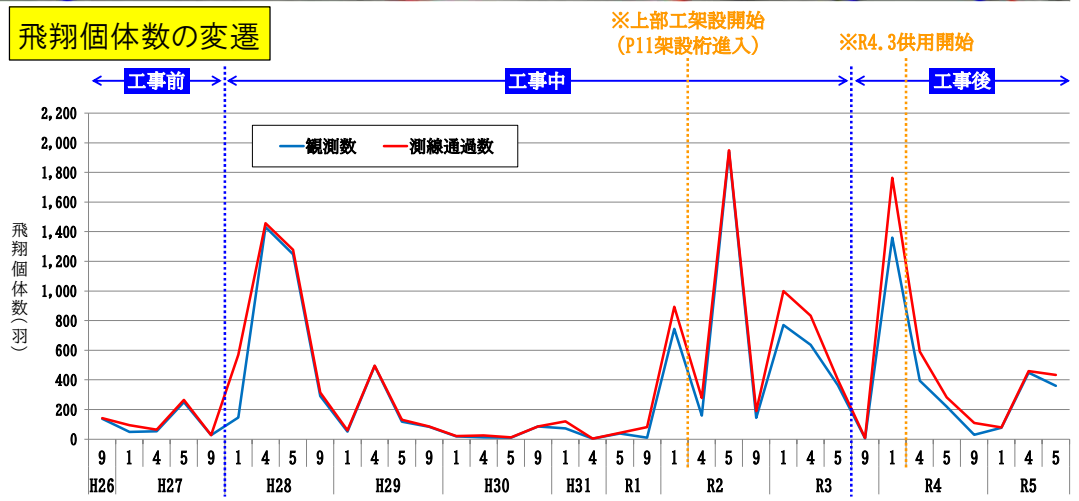
シギ・チドリ類はR5.5に左岸側を359羽が飛翔し、その9割以上が桁下を飛翔した。R5.5は例年よりも個体数が少ない中で、小松海岸での確認が多かったことから、左岸側での飛翔が多かったと考えられる。

2023/5/2 シギ・チドリ類 注意) グラフ中の縦軸は飛翔高度を10m間隔で、横軸は左岸からの水平距離を50m間隔で表示している。 総高度観測数：359羽、単位：%

飛翔高度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
80～90m																														
70～80m	R5.5																													
60～70m																														
50～60m																														
40～50m																														
30～40m																														
20～30m		6.4																												
10～20m (橋上)																														
10～20m (橋下)	3.6	27.9																												
0～10m		62.1																												
距離	0m					250m					500m					750m														



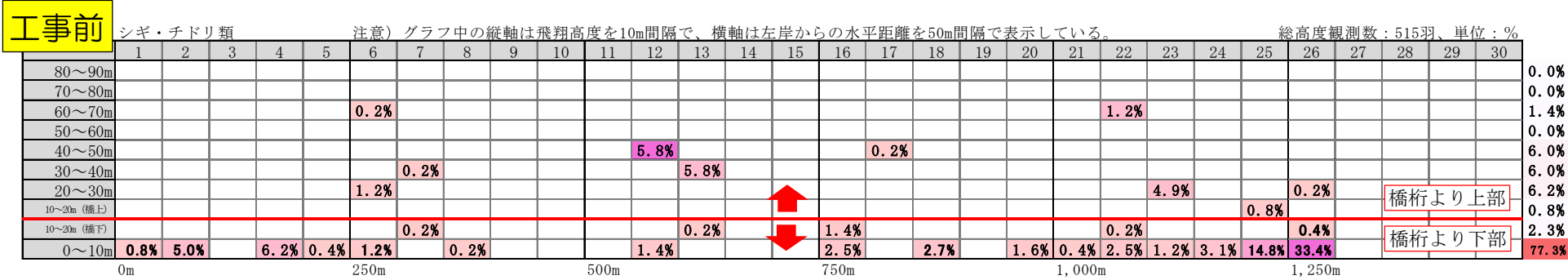
過去の検討会でも示してきた通り、シギ・チドリ類は、工事中、工事後も渡河部を飛翔しており、その高度を大きく上げることなく、さらに桁下も飛翔していることが確認された。



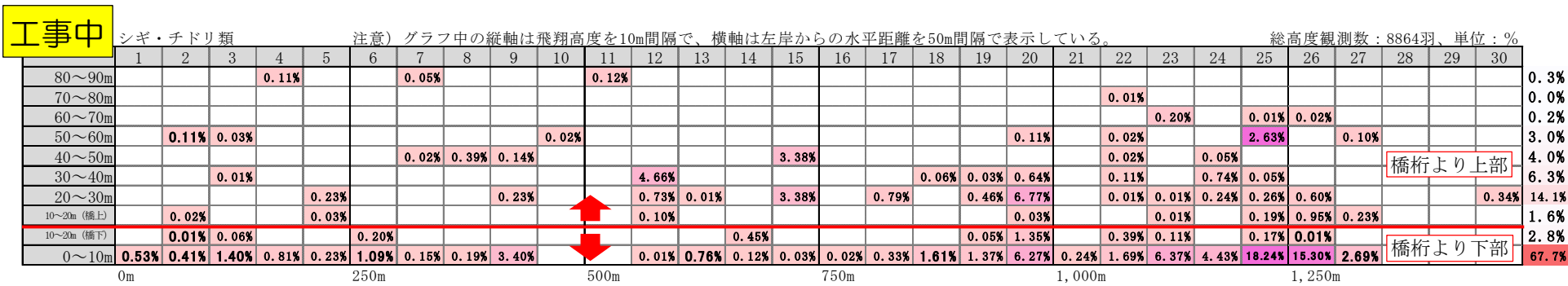
# 2-7 鳥類調査 ～シギ・チドリ類の飛翔状況～



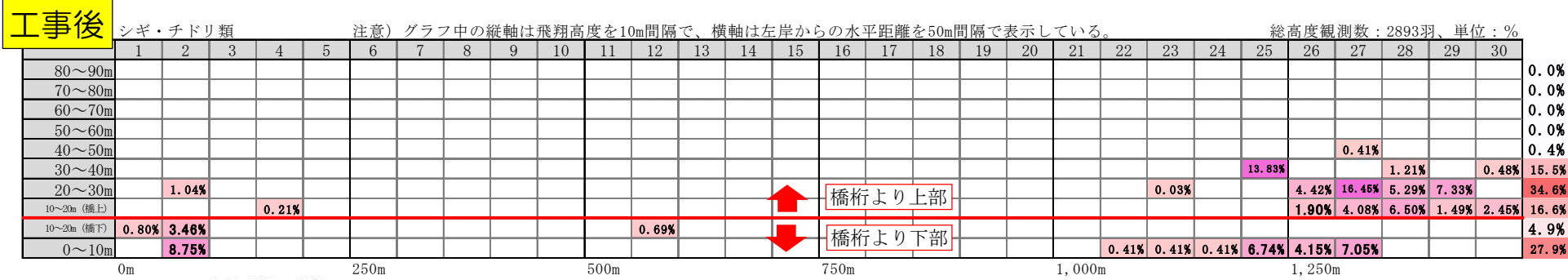
シギ・チドリ類の飛翔状況について、工事前、工事中、工事後の集計を以下に示す。工事前に水面際を77%が飛翔していたが、上部工整備に伴って飛翔高度が上昇し、工事後には全体の33%が桁下を、67%が桁上を飛翔するように変化した。



77%が水面付近を飛翔



67%が水面付近を飛翔し、約3割が桁上を飛翔



33%が桁下を飛翔し、約67%が桁上30mの範囲を飛翔





## ■ 2-8 鳥類調査 ～シギ・チドリ類の飛翔状況～



シギ・チドリ類の飛翔状況の変化についてまとめる。

### ■ 飛翔状況の変化について

- 検討会初期から予想されていたシギ・チドリ類の飛翔高度の上昇については、**上部工の整備に伴って桁上を飛翔するために飛翔高度の上昇が確認された。**
- 飛翔高度はやや上昇したものの、橋桁に近いところを飛翔し、さらに**桁下の飛翔も確認されたこと**から、上部工を回避しながら飛翔していることが確認された。

### ■ 環境保全対策の効果

- 事業では、鳥類の飛翔に対する**環境保全対策として、飛翔阻害を最小にするために桁橋の形式とした（計画段階のミティゲーション）。**調査の結果、**上部工の上と下を飛翔しつつも、吉野川河口のシギ・チドリ類が減少するといった悪影響の傾向は確認されなかった。**

### ■ 自動車ヘッドライトの影響（第15回検討会で報告）

- 工事前に予想されていたマリンピア沖洲人工海浜への**自動車走行時のヘッドライト**については、光が届かず、シギ・チドリ類のねぐらに対して**影響が生じていないことを確認した。**  
（※第15回検討会にて報告済み）